



美味しそうな実を見定めるツアー参加者

## 採れたての「下妻甘熟梨」を堪能

常総線とバスで行く  
“幻の梨”下妻甘熟梨食べ放題の旅

関東鉄道常総線の活性化や沿線地域の産業振興、地産地消の推進を目的に、関鉄観光株式会社が主催する「“幻の梨”下妻甘熟梨食べ放題の旅」が8月23・24日の両日実施され、県内外から訪れた75名が、豊かに実った甘熟梨の梨狩り体験や大宝八幡宮の観光などを楽しみました。民間主導の「梨狩りツアー」が本市で実施されるのは初めて。

東京都足立区から家族や友人と参加した佐々木緑さんは「2年前に、足立区にあった下妻のアンテナショップ・シモンちゃんの家『いいな!下ツアー』で梨狩りを体験した。あの時の美味しかった甘熟梨の味が忘れられず、今回のツアーに参加した。やっぱり美味しい」と採れたての甘熟梨を堪能していました。

また、8月23日には、千葉県浦安市にある下妻市アンテナショップ「下妻ファーム」の常客を対象にした「いいな!下ツアー梨狩り体験」で、浦安市民など27名も梨狩りを体験し、市民交流を深めました。



真剣な表情で祖父母に絵ハガキを書く児童たち

## 絵ハガキで祖父母に交通安全を呼びかけ

高道祖小学校の3～6年生143人が7月15日、絵ハガキで祖父母に交通安全を呼び掛ける「キッズレター作戦2014」を行いました。児童たちが作成した絵ハガキは、9月15日の敬老の日に祖父母に届くよう郵送されます。

下妻警察署交通課の警察官から交通ルールや高齢者に多い交通事故の説明を受けた後、児童たちは「左右にじゅうぶん気をつけて」「バイクを乗るときは安全運転してね」などと祖父母の交通安全を願い、メッセージを書き込みました。

近年、高齢者の交通事故が増加傾向にあることから、孫からのメッセージで交通安全意識を高めてもらおうと茨城県警察本部が企画し、県内の小学校に参加を呼び掛けました。今回は公立小学校37校が応じ、5,000通を目標にしています。

高道祖小学校でキッズレター作戦2014



新鮮な野菜など並ぶ物産販売ブース

## 足立区伊興南町の夏祭り下妻をPR

自治会同士の地域交流を模索する東京都足立区の伊興南町内会が8月22日、町内住民に下妻市を知ってもらおうと夏祭り会場で、下妻の採れたて野菜などの物産販売を実施しました。

朝早く大型バンで持ち込んだ新鮮な長ナスやキュウリ、下妻甘熟梨、納豆、梨ジャムなど14種類の物産は、午前9時の販売開始から約30分で売り切れてしまうほどの好評ぶりでした。

町内会長の石山康之さんからは「初めての交流事業で全部売れてよかった。これからは年4回の開催を目指したい。今後も自然豊かな下妻市と交流を深めたい」と話が聞けました。

10月5日には町内住民を対象とした「いいな!下ツアー」が企画され、ピアスパークしもつまでさつまいも掘りを体験するなど、多彩な事業で地域交流が図られていきます。

足立区伊興南町内会との地域交流



## 市内中学生が水泳で全国大会出場

7月12・13日に笠松運動公園で開催された茨城県民総合体育大会中学校水泳競技大会で、優秀な成績を収め、標準記録を突破して全国大会出場を決めた東部中学校の生徒6名が8月12日、市役所を訪れました。

8月21～23日に高知県高知市で開催される第54回全国中学校水泳競技大会に向けて、200m自由形と400mフリーリレーの2種目に出場する佐藤浩輝さんは「0.1秒でも早く泳いで、茨城県代表として恥じないレースをしたい」と力強く決意表明し、稲葉市長は「暑い日が続くので体調を管理し、練習の成果を十分に発揮してください」と激励しました。

全国大会出場に向けて市役所を訪問



全国大会での活躍を誓う選手たち  
右から佐藤さん、野部さん、倉持さん、横瀬さん、中山さん、前村さん

■全国大会出場者(敬称略)

種目	氏名(学校名)
水泳200m自由形	佐藤浩輝(東部中・3年)
水泳400mフリーリレー	佐藤浩輝(東部中・3年) 倉持航平(東部中・3年) 野部慎(東部中・3年) 横瀬凜太郎(東部中・1年) 中山凌雅(東部中・3年) 前村怜希(東部中・3年)

## ほっとレポライン 市民の声

### 「大宝地区おやじの会」スタート! ダンボールハウス宿泊体験で思い出づくり

大宝地区では、今年の夏、熱いおやじたちが集結し、「何か子どもたちにしてあげられることはないか」と話し合い、8月9～10日に「ダンボール宿泊体験」を大宝小学校体育館で行いました。

「大宝地区おやじの会」は、大宝小学校PTA、OBの有志が集まり今年4月に発足し、保護者同士の絆、子どもたちとの関わりをもっともっと深くしていこうと思うおやじ達が集まりました。

4月に発足し、8月の宿泊体験実施でしたので、あわただしい準備に追われながらも地域の方々にも支えられ、無事に宿泊体験を成功させることができました。

当日、子どもたちは3～5人にチームに分かれ、設計図から書き始め、リーダーを中心に試行錯誤でダンボールハウスを作っていくわけですが、この時の子どもたちの真剣な顔は本当に一流の職人さんそのものでした。そして何より、手伝いで参加していた親たちが、子どもたちより夢中になっていました。

ダンボールハウスが完成した後は、お手伝いください

### 大宝地区おやじの会の飛田正樹会長からの お便りを紹介します。

たお母さん方によってもらったカレーライス、自分たちで作ったハウスの中で楽しくいただきました。その後は学校探検をしたり、校長先生に星の話を聞いたり、興奮して眠れない夜が続きましたが、いつしか疲れきった子どもたちは就寝の床についていきました。きっと楽しい夏休みの思い出になったことでしょう。

われわれ保護者も子どもたちと真剣に遊ぶことで、子どもたちから何かを学んだような気がします。これからも「大宝地区おやじの会」は子どもたちと一緒に成長しながら感動の1ページを造っていきたいと思います。



ダンボールハウスを完成させてガッツポーズ(飛田会長:前列左から1番目)

有料広告欄

有料広告欄